

ベーシックインカム（基本所得 Basic Income 以下BI）とは、生活費相当額の所得を、全ての人に、無条件で、権利として給付するという考え方。

200年あまりの歴史があり、例えば思想家のトマス・ペイン、詩人のエズラ・パウンド、公民権活動家のキング牧師、日本では京都ゆかりの思想家の土田杏村などが提唱または賛同していた。1930年代と1970年代には大きな社会運動として盛り上がったし、今も要求されている。ヨーロッパでは幾つかの国で緑の党の綱領となり、フランスでは数年前に具体的な政策案まで立案されていた。

BI

ンカム

ベーシック

Q: 基本的な所得って生活保護水準のこと？

T: 違う。

現在の生活保護水準は平均世帯の消費水準の6-7割程度で決められている。こんな決め方には(そして現在の削減の動きにも)なんの正当な根拠もない。このあたりから根本的に問うていくことも必要。

Q: BIは働く権利の否定じゃないの？

T: 確かにBIの考え方は「働かない権利」とも手を携えて登場してきた。

しかし失業者の運動の中でBIが要求されたように(1930年代、70年代のイギリス、1930年代のカナダ)、BIは賃金労働を(必ずしも)否定しない。否定しようとしているのは飢餓への恐怖によって劣悪な賃金労働へ追い立てられることである。そのうえで賃金労働であれ、別の形態の労働であれ「働きたいのに働く場がない」といった問題には、BIは直接は答えられない。別の運動が必要である。

Q: 今の所得保障の仕組み（生活保護など）の中での取り組みを否定するの？

T: そんなことはない。

これまでのBI要求は、既存の所得保障制度への取り組みの中から出てきた(1970年代のイギリス、アメリカ)。BIを一つの理念、裏付けとして、現行制度の中で少しでも多くの給付を引き出すこと、現行制度の改悪を許さないこと、は全くBIと矛盾しない。(少なくとも賃労働の廃絶を謳う人たちが労働組合運動をしていることほど矛盾しない)

よくある疑問
&
組合員の眩き

Q: 理念は分かった。でも「働かざるもの食うべからず」というこの社会で、現実味はないんじゃないの？

T: 現在の制度では、税控除などの形で、実は高所得者層ほど、国からお金を貰っている計算になる。また現行制度を完全に実施する場合と比べたら、お金もそれほど掛からないし、労働意欲も高まる、という経済学者の試算もある。

なにより私たちは「働かざるもの食うべからず」だけではなくて「衣食足りて礼節を知る」という知恵をも持ち合わせていたはず。

それに

そもそも、

生きていることは労働だ